

日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に
関する具体的方策について
(中間報告)

令和 3 年 8 月

日進市立小中学校適正規模等検討委員会

目次

I 日進市立小中学校適正規模等検討委員会の検討過程について	2
(1) 第1回及び第2回検討委員会での検討結果について	2
(2) 今後の展開について	3
II 学校別の検討結果	4
(1) 小学校	4
(2) 中学校	9
III 意見	11
日進市立小中学校適正規模等検討委員会 委員名簿	13

◆添付資料

- ・日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針（令和2年1月改訂）
- ・日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する具体的方策について（提言）（令和3年3月）

Ⅰ 日進市立小中学校適正規模等検討委員会の検討過程について

日進市立小中学校適正規模等検討委員会（以下、「検討委員会」と言う。）では、令和元年度から令和２年度にかけて設置された検討委員会において提言された内容を踏まえて、３５人学級の観点を加味した最新の人口推計（※１）に基づき、適正化の必要な学校がないかどうかについて検討した。

なお、３５人学級の実施について、国では、令和３年度から小学校２年生で３５人とする事とし、以後、段階的に実施するとしているが、愛知県では、令和２年度の時点で既に小学校２年生までは３５人学級としており、令和３年度は、１年前倒して小学校３年生の３５人学級を実施していることから、本委員会で検討する上では、このまま１年前倒して実施していくこととなった場合を想定した。

また、適正化の必要性やその手法の検討に当たっては、令和２年１月に改訂された「日進市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」に基づいて行った。

※１ 本委員会の検討資料として使用した人口推計は、企画政策課において「日進市第６次総合計画」策定のために作成した人口推計（令和２年３月発表。令和元年１０月１日時点人口。）を基に、令和２年１０月１日時点の最新の数値で更新した人口推計を基礎数値として採用し、その基礎数値に各学区の通学率を加味した数値を児童生徒数として定義している。

（１）第１回及び第２回検討委員会での検討結果について

６月２８日及び７月１３日に第１回・第２回の検討委員会を開催し、市内各小中学校の適正規模及び適正配置について検討した。

その結果、前回の検討委員会で適正化の必要があるとした西小学校及び北小学校・日進中学校については、最新の推計からも、適正化の必要があると判断し、適正化の手法については、前回提言どおり学区の見直しによるものとした。

加えて、３５人学級の実施に伴い、必要教室数が増え、教室数に余裕が少ない状況が長期間続く見込みとなった南小学校についても適正化の必要があると判断し、具体的な手法については、基本方針に基づき、まずは学区の見直しを検討することとした。なお、学区の見直しの判断には、関係者から構成される学区検討部会での調査・研究が必要となり、その報告を受けた後、本委員会で最終判断することとした。

また、赤池小学校については、推計上は利用可能教室内で対応できる見込みであるものの、赤池箕ノ手土地区画整理事業による宅地化の動向によっては、児童数が急激に増加することも考えられることから、引き続き、動向を注視することとし、併せて、今後の教室数の不足に備えて、大規模な改修や増改築により対応可能な方法を検証しておくべきであると判断した。

(2) 今後の展開について

本委員会では、南小学校を新たに適正化の必要がある学校と判断し、具体的な手法については、学区検討部会による調査・研究の結果を待って、最終判断することとした。

学区検討部会での調査・研究には時間を要することから、第1回及び第2回の検討委員会において検討した各小中学校の結果を中間報告として報告し、南小学校については、学区検討部会での結果を受け、本委員会で最終判断した後に、最終提言としてまとめることとする。

II 学校別の検討結果

学校別の適正配置に関する判断は、表1、2により行った。表1、2は、小中学校区別の児童生徒数と学校規模の推移を示しており、小学校については段階的に35人学級が実施されることを前提としている。

(1) 小学校

①西小学校

令和3年度に「適正規模」から「大規模」となり、今後も香久山西部土地区画整理事業により、児童数の増加による大規模化が見込まれること、さらに教室数に余裕がなく、利用可能教室数を超える見込みであることから、前回提言と同様、適正化の必要があると判断した。適正化の手法については、前回提言を受けて、現在、教育委員会にて学区の見直しに関する説明会等を行っていることや、学区の見直しが行われた場合、学校規模は適正規模となることから、前回提言どおり学区の見直しによるものとした。

②東小学校

現在及び推計においても「適正規模」の範囲内にあり、前回提言では教室数の余裕が少ないことから動向を注視するとしていたが、利用可能教室が増えたことや、前回推計よりも児童数が減少する見込みとなったことから、適正化の必要はないと判断した。

③北小学校

現在は「適正規模」であるが、児童数の緩やかな増加や、35人学級の対応により必要教室数が増え、「大規模」となることが想定される。また、教室数に余裕がなく、利用可能教室数を超える見込みであることや、進学先である日進中学校の教室数が不足する状況から、前回提言と同様、適正化の必要があると判断した。適正化の手法については、前回提言を受けて、現在、教育委員会にて学区の見直しに関する説明会等を行っていることや、学区の見直しが行われた場合、学校規模は適正規模となることから、前回提言どおり学区の見直しによるものとした。

④南小学校

現在及び推計において「大規模」であり、前回提言では動向を注視するとしていたが、35人学級の対応により必要教室数が増え、教室数に余裕が少ない状況が長期間続く見込みとなったことから、適正化の必要があると判断した。適正化の手法については、基本方針に基づき、まずは学区の見直しを検討することとし、具体的な地域や時期については、学区検討部会を立ち上げ、部会での調査・研究の結果を受けて、最終判断することとする。

⑤相野山小学校

現在は「小規模」であり、35人学級の対応により必要教室数が増えて、「適正規模」となるが、児童数の緩やかな減少により、その後「小規模」となる見込みである。しかし、(仮称)日進北部土地区画整理事業に伴い、児童数の増加が想定されることから、前回提言と同様、適正化の必要はないと判断した。

⑥香久山小学校

現在及び推計においても「適正規模」の範囲内にあり、西小学校及び北小学校の学区の見直しが行われた場合も、利用可能教室数により対応できる見込みであるため、前回提言と同様、適正化の必要はないと判断した。

⑦梨の木小学校

現在及び推計においても「適正規模」の範囲内にあり、教室数にも余裕があるため、前回提言と同様、適正化の必要はないと判断した。

⑧赤池小学校

令和3年度に「適正規模」から「大規模」となり、児童数の増加や、35人学級の対応により必要教室数が増え、教室数に余裕が少ない状況が一定期間続くものの、次第に、児童数は減少傾向に転じる見込みである。しかし、施行中の赤池箕ノ手土地区画整理事業を含む学区であることから、前回提言と同様、動向を注視することとした。

なお、赤池小学校は、適正化が必要となった場合、隣接校の学校規模等の状況から学区

の見直しを選択することは難しいため、増築を検討することとなるが、学校敷地が狭く、手法が限定されることが予想されるため、あらかじめ大規模な改修や増改築により現有施設を最大限活用できる方法を検証しておくべきと判断した。ただし、増築等を行う場合は、学校規模が大きくなることによる影響が懸念されることから、児童の教育環境や教育内容に最大限の配慮をするべきである。

⑨竹の山小学校

現在及び推計においても「適正規模」の範囲内にあり、北小学校の学区の見直しが行われた場合も、利用可能教室数により対応できる見込みであるため、前回提言と同様、適正化の必要はないと判断した。

表1 小学校区別の児童数と学校規模の推移

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
西小	児童数	794	807	858	856	852	877	875	855	841	837	838
	学校規模	24	25	27	28	28	29	29	28	27	26	26
	過不足教室	+2	+2	0	▲1	▲1	▲2	▲2	▲1	0	+1	+1
西小 (学区見直し後)	児童数	794	807	858	766	757	771	766	750	734	729	726
	学校規模	24	25	27	24	24	24	24	24	24	24	24
	過不足教室	+2	+2	0	+3	+3	+3	+3	+3	+3	+3	+3
東小	児童数	611	633	628	612	576	562	529	503	466	453	432
	学校規模	19	19	21	21	20	20	18	17	16	16	15
	過不足教室	+1	+3	+1	+1	+2	+2	+4	+5	+6	+6	+7
北小	児童数	810	814	821	830	850	851	849	837	815	804	781
	学校規模	24	24	25	26	27	28	28	27	26	25	24
	過不足教室	+1	+2	+1	0	▲1	▲2	▲2	▲1	0	+1	+2
北小 (学区見直し後)	児童数	810	814	821	585	596	598	596	588	574	565	548
	学校規模	24	24	25	18	19	20	20	20	19	19	18
	過不足教室	+1	+2	+1	+8	+7	+6	+6	+6	+7	+7	+8
南小	児童数	973	989	977	989	971	967	966	960	962	953	971
	学校規模	27	28	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	過不足教室	+4	+3	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1
相小	児童数	249	245	264	265	263	267	249	243	238	235	225
	学校規模	11	11	12	12	12	12	11	10	9	10	10
	過不足教室	+7	+9	+8	+8	+8	+8	+9	+10	+11	+10	+10
香小	児童数	706	692	673	643	627	603	579	556	509	490	456
	学校規模	21	20	21	21	21	20	19	19	18	18	16
	過不足教室	+13	+14	+13	+13	+13	+14	+15	+15	+16	+16	+18
香小 (学区見直し後)	児童数	706	692	673	786	777	763	740	712	665	645	613
	学校規模	21	20	21	25	25	25	25	24	22	21	20
	過不足教室	+13	+14	+13	+9	+9	+9	+9	+10	+12	+13	+14
梨小	児童数	665	645	712	698	672	645	613	571	543	533	519
	学校規模	20	20	23	23	22	21	20	19	18	18	18
	過不足教室	+6	+7	+4	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+9	+9
赤小	児童数	801	822	895	912	935	954	946	936	895	849	795
	学校規模	23	25	28	29	30	30	30	30	29	28	27
	過不足教室	+5	+6	+3	+2	+1	+1	+1	+1	+2	+3	+4

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
竹小	児童数	514	496	489	468	452	450	448	430	421	409	395
	学校規模	17	17	18	18	18	18	17	16	15	14	13
	過不足教室	+11	+12	+11	+11	+11	+11	+12	+13	+14	+15	+16
竹小 (学区見直し後)	児童数	514	496	489	670	658	659	657	634	619	605	586
	学校規模	17	17	18	23	23	22	23	22	21	20	19
	過不足教室	+11	+12	+11	+6	+6	+7	+6	+7	+8	+9	+10
合計	児童数	6,123	6,143	6,317	6,273	6,198	6,176	6,054	5,891	5,690	5,563	5,412
	学校規模	186	189	205	208	208	208	202	196	188	185	179

凡例

過小	6学級以下	小	7~11学級	適正	12~24学級
大	25~30学級	過大	31学級以上		

※学区見直し後の数値については、前回提言の内容どおりに行われたと想定して算出。

(2) 中学校

①日進中学校

現在及び推計においても「大規模」であり、今後も生徒数の増加が見込まれること、さらに教室数に余裕がなく、利用可能教室一杯となる状況が見込まれることから、前回提言と同様、適正化の必要があると判断した。適正化の手法については、前回提言を受けて、現在、教育委員会にて学区の見直しに関する説明会等を行っていることや、学区の見直しが行われた場合、教室数に余裕が出てくることから、前回提言どおり学区の見直しによるものとした。

②日進西中学校

現在及び推計において「大規模」であり、前回提言では動向を注視するとしていたが、教室数には余裕があることから、すぐに適正化する必要はないと判断した。また、日進中学校の学区の見直しが行われた場合も、利用可能教室数により対応できる見込みであるため、受け入れ可能とした。

③日進東中学校

現在及び推計において「大規模」であり、前回提言では動向を注視するとしていたが、教室数には余裕があることから、すぐに適正化する必要はないと判断した。

④日進北中学校

現在及び推計においても「適正規模」の範囲内にあり、日進中学校の学区の見直しが行われた場合も、利用可能教室数により対応できる見込みであるため、前回提言と同様、適正化の必要はないと判断した。

表2 中学校区別の生徒数と学校規模の推移

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
日進中	生徒数	754	807	801	797	826	835	832	846	865	886	873
	学校規模	21	22	23	22	23	24	23	23	24	25	25
	過不足教室	+2	+3	+2	+3	+2	+1	+2	+2	+2	+1	0
日進中 (学区見直し後)	生徒数	754	807	801	693	715	723	722	730	743	759	744
	学校規模	21	22	23	19	20	21	20	21	22	22	21
	過不足教室	+2	+3	+2	+6	+5	+4	+5	+4	+4	+3	+4
日進西中	生徒数	880	884	872	902	911	934	949	957	999	989	984
	学校規模	24	24	24	24	26	26	27	27	28	27	27
	過不足教室	+8	+10	+10	+10	+8	+8	+7	+7	+7	+6	+7
日進西中 (学区見直し後)	生徒数	880	884	872	923	932	954	969	978	1023	1014	1009
	学校規模	24	24	24	26	26	26	27	27	28	28	28
	過不足教室	+8	+10	+10	+8	+8	+8	+7	+7	+7	+6	+6
日進東中	生徒数	625	632	663	664	714	722	745	701	708	663	653
	学校規模	18	18	19	19	20	20	20	20	20	18	18
	過不足教室	+4	+6	+5	+5	+4	+4	+4	+4	+4	+6	+6
日進北中	生徒数	398	444	459	443	454	439	403	384	384	379	380
	学校規模	11	13	14	13	14	13	12	12	12	12	12
	過不足教室	+5	+3	+2	+3	+2	+3	+4	+4	+4	+4	+4
日進北中 (学区見直し後)	生徒数	398	444	459	529	544	527	493	480	485	484	485
	学校規模	11	13	14	16	16	15	14	14	14	15	14
	過不足教室	+5	+3	+2	0	0	+1	+2	+2	+2	+1	+2
合計	生徒数	2,657	2,767	2,795	2,806	2,905	2,930	2,929	2,888	2,956	2,917	2,890
	学校規模	74	77	80	78	83	83	82	82	84	82	82

凡例

過小	6学級以下	小	7~11学級	適正	12~18学級
大	19~30学級	過大	31学級以上		

※学区見直し後の数値については、前回提言の内容どおりに行われたと想定して算出。

Ⅲ 意見

第1回及び第2回検討委員会で発言された意見は、次のとおりである。

- ・教室が足りるから問題ないとするのではなく、子どもの気持ちに寄り添ってほしい。
- ・学区の見直しの際は、行政区の組編成についても並行して考えられると良いと思う。
- ・学区の見直しの際は、道路で完全に分けてしまわず、柔軟に考えても良いのではないかと
思う。
- ・教室数の確保は大事だが、児童数が増えるにあたり、人の動きや特別教室等の場所も考
える必要がある。
- ・空き教室に関しても通級指導教室や少人数指導等に使用し、様々な用途で使用されるの
で、無駄ではない。
- ・3年に一度の推計結果で、その都度方針が変わるというのは、子どもや地域の方等、影響
を受ける人たちが多いため、長い期間、先を見越して計画してほしい。
- ・学区の見直しをすとしても、寄り添って検討することで、該当となる方の理解を得やす
いのではないか。
- ・学校が変わる児童生徒の配慮だけでなく、受け入れる側の学校も先を見越して、教育活動
の計画を立てていく必要があるため、ある程度時間が必要。
- ・検討委員会で検討されている検討段階の情報を外に伝えられる場を設けると、背景が伝わ
り、理解は得られるのではないか。
- ・兄弟姉妹の事情や教育現場の事情、地域コミュニティの事情等、様々な要素が関わるた
め、それらを考慮して進めていただきたい。
- ・子どもたちに不都合がないように解決策を検討する場をいくらかでも設けてほしい。
- ・日進市の地形で高低差のある地区もあるため、通学路の設定に関しても道の地形や高低差
を考慮してほしい。
- ・赤池小学校に関しては、他の課と協力して、施設を共有することも一つの手ではないか。
- ・プレハブ校舎も多少の不便はあるものの、数年間という期限付きであれば過ごすことがで
きるのではないかと思う。
- ・児童生徒の数が増えれば教職員の数も増え、児童生徒の動線確保も必要になってくる。

- ・教室数の確保だけでなく、教育効果としてプラスになるような要素を併せて考えてほしい。
- ・一時的な改修をするにしても、学校現場の声を聞いてほしい。
- ・専用バスの整備があると安全、安心で子どもを送り出せるのではないかと思う。